

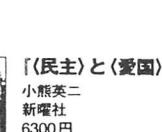
ジャンル別ベスト5。自信をもつてお薦めします

総合

- A** さて、「ダカーホン」編集部が選ぶ本ベスト5を紹介しましょう。
- B** 去年は首相の靖国参拝や歴史教科書問題、今年は北朝鮮の拉致問題。妙にナショナリズムがブームになっているよう思えるんだけど、何だか不気味じゃない?

総合 ベスト5

総合



「(民主)と(愛国)」
小熊英二
新潮社
6300円

戦争の記憶とともに「戦後」の姿をダイナミックに、そして繊細に浮かび上がらせ、「戦後思想」の真実を鋭く問い合わせた挑発の書



「世界最高のクラシック」
許光俊
光文社新書
720円

「最高」の指揮者と「最高」の演奏とは何か。気鋲のクラシック評論家が贈る、孤高のクラシック批評である。入門書としても満足の一冊



「球形時間」

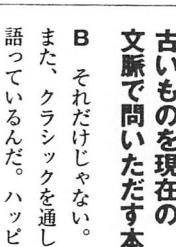
多和田葉子
新潮社 1500円

ある放課後、時空をさまよう英国女性と出会う高校生サヤ。太陽を崇拜する青年にひかれるクラスマート・カツオ。2人の日常を描く奇妙な学園小説

「反=近代文学史」

中条省平
文芸春秋 2000円

明治以後の「反主流」小説家たちの作品に新たな意味を与え、近代文学の「自明性」を根底から覆した強烈かつ大胆な文芸批評。論旨も明快



古いものを現在の文脈で問いただす本

に連れて行く」ような本ですね。わけも分からずたらふく食つて、うちに、クラシックのすごさが分かってくるんです。

B それだけじゃない。この本もまた、クラシックを通して時代を語っているんだ。ハッピー・エンドの多いクラシック音楽を「いま」演奏し、聴く意味は何か? を問い合わせてくる。明日は今日よりもいいといい、なんて言えなくなつた

時代に聴く意味を。

A あと面白かったものといえば、多和田葉子の「球形時間」か

く知らなかつたクラシック音楽に俄然興味が出てきたもの。

A 著者の許光俊自らが言うように、まさに「興味はあるけれど、あまり知識や経験を持っていない人を、いきなり銀座の有名すし屋

にも名物老女教師であるオリガの足跡を追う。そして徐々に明らかになつていく謎……。一度読み始めたら止まらなくなりました。

C 私は「世界最高のクラシック」

が一番面白かったです。これまでよ

手を振る昭和天皇の表紙がなんだか象徴的です。世相に「不気味さ」を感じる一人として思わずジャケ買い。

C 900ページもあるこの本を?

B でもね、これが読んでみると期待以上の面白さ。丸山眞男や竹内好といった戦争体験を持つ戦後知識人たちが「民主」や「愛国」について話もありますよね。「愛國心とは何か」という議論をいい加減にしたまま、「気分」だけが先行している気がします。

B そこで、強烈にひかけたのが「(民主)と(愛国)」だった。敗戦直後の広島で、大群衆に向かって「(民主)と(愛国)」だつた。敗戦の衝撃の過去をめぐる物語

A 教育基本法に「郷土や国を愛する心」を育てることを盛り込もう、なんて話もありますよね。「愛國心とは何か」という議論をいい加減にしたまま、「気分」だけが先行している気がします。

B そこで、強烈にひかけたのが「(民主)と(愛国)」だつた。敗戦直後の広島で、大群衆に向かって「(民主)と(愛国)」だつた。敗戦の衝撃の過去をめぐる物語

A 知識人たちが「民主」や「愛国」という言葉にどんな思いを託していたのか。それは、時代を超えて多くのことを教えてくれる。

A 著者の小熊英二さんは戦後のナショナリズムや「公」をめぐる言論を一つ一つ検証していくんですね。「民主」と「愛国」って矛盾する概念に思われがちですが、かつての戦後知識人にとっては容易に両立するものだったとする著者の記述に、目を開かれる思

C ふーん。でもそれって「戦後」の話でしょ。なんだか古臭いなあ。でも、君だって「戦後とは何とか」と聞かれたらはつきりと答えられないでしょ? なら、どうして「戦後」が古臭いと言えるのさ。

B でも、この本のテーマは深刻だよ。スターリンによって「肃清」が行われたという激動の1930年代において、ロシア・東欧を生きる人々が「時代」という名の怪物に運命をもてあそばれる様子が

B も私は大好き。いつも爆笑しちゃう。

C 著者の米原万里さんはロシア語の通訳者でもあるのよね。彼女の通訳をめぐるドタバタエッセイも私は大好き。いつも爆笑しちゃう。

A それだけにこの言葉は複雑で重いんです。「民主」や「愛国」という言葉もまた然り。だからこそ、本書はその複雑さへ見事にメスを入れた名著だと言いたいですね。

「時代」に翻弄されるロシア、東欧の人々

A 第2位に挙げたのは「オリガ・モリソーヴナの反語法」。

B ガ・モリソーヴナの反語法。

C 著者の米原万里さんはロシア語の通訳者でもあるのよね。彼女

の通訳をめぐるドタバタエッセイも私は大好き。いつも爆笑しちゃう。

A あと、この作品では物語をつないでいく著者の技が光っています。少女時代をバラハで過ごしたね。少女時代をバラハで過ごした日本人・志摩が、かつて通っていたソビエト学校の同級生と

B 明治から現代までの小説家のなかでも「反主流」の人たちを取り上げているのが特徴。これがまた素晴らしい。文芸作品を批評するこ

とを通して、「マーンストリームから外れた芸術」とは何かをえぐり出している。しかも、流れはスッ

キ。電車で読める文芸批評なん

A それだけにこの言葉は複雑で重いんです。「民主」や「愛国」という言葉もまた然り。だからこそ、本書はその複雑さへ見事にメスを入れた名著だと言いたいですね。